発問例

●二二三ページ

問 **「彼」が顎鬚の名刺に「急いで」「視線を走らせた」（5行目）のは、なぜか。**

答 彼らが何者か早く理解したかったから。

●二二四ページ

問 **顎鬚が「いやに」はっきりと「大丈夫ですよ。」（5行目）と言ったのは、なぜか。**

答 顎鬚は自分たちが家の写真を撮る明確な理由を持っているから。

補 ただし、その理由は彼らにとってだけ合理的なのであって、一般的な了解は得られないものである。

●二二五ページ

問 **「あんたはまるまるあんただからだ。とこ ろがこの家はそうでない。」（2行目）とは、どういうことか。**

答 「彼」の持ち主は「彼」自身だが、家の持ち主が誰かは分からないということ。

補 直前で家の「持ち主」という言い方を顎鬚がしていることに注目する。

語句の研究

●二二三ページ

4 一斉に　そろって、同時に。

6 押しとどめる　ある行動に出るようとするのを制止すること。

8 余儀なく　やむをえずの意。そうせざるを得ないさまを示す。

11 顧みた　振り返って後ろの方を見るの意。

14 吟味するように　念入りに調べるように。

●二二四ページ

5 顎鬚がいやにはっきりした声を出した。　「いやに」には「妙に」（異常であるさま）と「ひどく」（程度が甚だしいさま）の意味があるが、ここは両義的である。

5 あなたを撮るのではなく、家を撮る　顎鬚はここで「彼」に「あなた」と呼びかけているが、直後には「あんた」（二二五・1）と変わっている。この間に顎鬚の「彼」に対する建前上の敬意すらも失われたことがわかる。

キー・ポイント　わたくしたちは命ぜられて、家を撮影する責任がある。　顎鬚が使う一人称複数形は、ここでの「わたくしたち」に加え、「わたしたち」（二二四・11）、「我々」（二二四・12）と多用である。「わたしたち」が最も一般的な表現だとして、「わたくしたち」はかしこまった物言いをするのに使われ、「我々」は「わたしたち」よりも改まった謙称ではあるが、顎鬚の発言では「彼」に対して居丈高であることを表す効果をもたらしている。

7 お給金　給料として支払われる金銭。給料、給与に同じ。

9 三脚　カメラや望遠鏡などをのせるための三本足の台。脚は伸縮・開閉でき、持ち運びに便利な形をしている。

12 融資　資金を必要とする人に貸借すること。

●二二五ページ

2 掌を打ち合わせた　両手の手のひらをぶつけ合わせたの意。当然ながら音も立ったと見てよい。質問を重ねる「彼」に対する顎鬚の威圧的な態度の一つである。

6 住宅金融公庫　住宅建設資金や土地、借地権を取得したりするための資金を融通する政府金融機関。第二次世界大戦後の住宅難から昭和二十五（一九五〇）年に設立された。顎鬚の名刺に記載された「金融公庫」（二二三・5）とは名称が異なる。

注意する語句

（＊で用例を示した）

後退り…恐怖や警戒から、前を向いたまま少しずつ後ろにさがること。あとずさりに同じ。

＊犬に吠えられ、思わず後退りした。

口を入れる…他人のことに干渉する。口をさしはさむ。

＊仕事の話に口を入れてほしくない。

念を押す…十分に注意して確かめる。重ねて注意する。

＊忘れ物をしないように念を押す。